

一二〇アールで 一〇頭を飼う

―田畑輪換の飼料づくりで―

・関東中部水田地帯

群馬県高崎市付近は、零細な水田地帯で、大部分の農家は、養蚕を加えた平凡な米麦単作経営の多いところです。

木村さんはこの環境の中で、水田六四畝、畑五八畝、合計一二二畝という僅かな耕地に、一〇頭の乳牛を導入、一頭当たり年間平均乳量五、六九〇キ(約三二石)という好成绩をあげ、水田酪農のモデルとして推された方です。

木村さんは、都会の人と自分との収入にあまりの差があるのを何とかして改めたいと考え、

狭い土地で米づくりだけでは食ってゆけない米づくりだけでは冬が遊んでいてもつたいない

冬も生産があたり、地力の培養にも役立ち、そして将来性のある酪農をやろうと決心しました。狭い土地で牛を飼うのですから、まずなんといっても、

自給飼料の増産を工夫しよう

自給飼料は良い種類をえらぼう

自給飼料は良い土地に多肥栽培しよう

水田は大半を飼料畑として還元しよう

水田の裏作も飼料作物にしよう

といったことに目標を置いて実行にうつりました。

木村さんのやり方は、選んだ飼料作物のそれぞれの特徴をよくつかんで、長所を生かし、短所を押えるように、作付し組合せ、二―三毛作をしたり、思い切った多肥を施し

て、栽培利用期間を長くするなどの工夫をしています。又牧草と青刈作物を交互に利用して連続的に給与出来るような組合せ、春先の余剰青刈や牧草のサイレージ貯蔵、夏のテオシント、デントコーン、ソルゴーなどの刈取り、かぶの冬期間のための貯蔵と心を配っているのです。飼料作物栽培利用の状況は別表の通りですが、

輪換畑 四九畝には、イタリアン、Hワンライグラス、ラデノクロバーの混播牧草を作付し、ここでは反収一二斗の多収穫をあげ、二毛作、三毛作のデントコーン、ソルゴー、青刈えんばくなども、七斗、八斗の高い収量を示しています。

この秋まきの牧草には、かぶを混播して一石二鳥の飼料生産をあげているのも面白いやり方でその方法を次にご紹介いたします。

1 牧草とかぶの播種量(一〇畝当)

イタリアンライグラス	五〇〇〇キ
Hワンライグラス	五〇〇〇キ
ラデノクロバー	六〇〇〇キ
下総かぶ	一〇〇〇キ

2 九月四日播種

3 まき方 堆厩肥、金肥を全面に撒布し、耕転機で耕起、碎土、整地後、種子を全面撒布し、レーキで軽く覆土する。

4 一〇畝当施肥量 堆厩肥 五、六〇〇キ

化成三四号	九〇〇キ
苦土石灰	一二〇〇キ

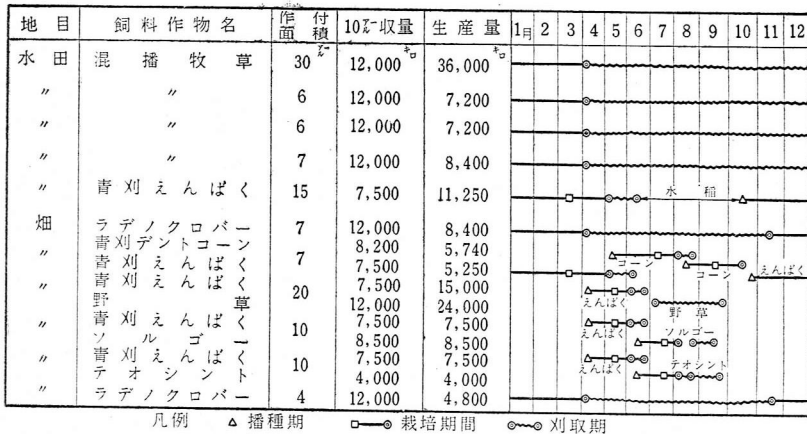
こうして家畜かぶは、十月下旬より間引しながら収穫を始め、一月中旬に終るようになりますと、あとは牧草が生育をつづけることになります。

こんな工夫を重ねて、僅か一二二畝の耕地でありながら、飼料作物の延作付面積は一四九畝になっているから驚くではありませんか。自給飼料の総生産量は一六〇斗、一頭一六斗、自給率は栄養価から見て約七〇%、乳代に対する購入飼料代の割合は二九・四%で、都市に近い零細面積に

おける多頭飼育の場合としては、極めて健全な飼料給与とすることが出来ます。

このような成功のかけには、並々ならぬ苦勞もあったことと思われまます。例えば田畑輪換の断行に当たっても、転換後三カ年ほどは、米の収入減を補うだけの酪農収入ががららず、苦しい年月であったことでしょうが、今にして乳牛の頭数が増加し、自給飼料の生産体制が先に出来上ったことが役立ったことを読者の皆さんも思いあたることでありましょう。

飼料作物栽培状況



① 混播牧草：イタリアン、Hワンライグラス、ラデノクロバー、イタリアン、オーチャードグラス、ラデノクロバー
 ② 春刈えんばく：春まきは前進、秋まきは岡山黒
 ③ 牧草の施肥量：実収量の施肥量の2倍程度

田畑輪換で飼料づくり

水田地帯での酪農では、労力の調整と自給飼料生産をどうするか成否の分れ目となるようです。この両方の目的を達することの出来るやり方が、一部の水田を畑にもどして、そこに自給飼料をつくるやり方です。一時、米の代金がへるように思われますが、水田作業の労力は減り、そこから、牧草や青刈作物が多収穫され、畜産物代金となつて入ってくるようになります。少なくとも酪農に重点を置くつもりであるならば、多頭飼育の方向に進むことでしょう。そうすればいやでも田畑の輪換を工夫しなければなりません。

輪換畑への飼料づくりの準備

- 1 排水を良くし、滲透水のないようにする。
- 2 石灰を充分施して酸性土壌は矯正をする。
- 3 播種前の碎土整地を充分にする。
- 4 排水不良田では高畦として排水溝をつくる。
- 5 夏又は冬に灌水出来るようにしておく。

輪換畑への飼料作物（秋まき）

- 1 牧草では赤クロパー、アルサイクロパー、ラデノクロパー、オーチャード、メドワフェスク、イタリアンライグラス、ペレニアルライグラス等、排水良き酸性でないところではルーサンもよく、マンモスイタリアン、マンモスペレニアルなども真の生産力を発揮いたします。
- 2 青刈作物では、青刈ライ麦、青刈えんばく、コモンベツチ、ヘアリーベツチ、れんげ、レープ、青刈えんばくなどが適します。
- 3 根菜では、下総かぶ、小岩井かぶ、雪印改良紫かぶ、紫長かぶなどが良いでしょう。またルタバガも早期田の転換には適しております。

青刈えんばくの使い方

生育早く、適地の範囲の広い青刈えんばくは誰でも、どこでも良い収量をあげられますが、増収のためには、堆肥を充分施すこと。早くまくこと。まめ科のベツチれんげ、あるいはイタリアンと混播すること。青刈用の品種をえらぶこと。刈取りは生長点を切らぬよう高刈りとする。ベツチ、ライグラスと混播すること。などに注意すれば成功をいたします。

品種

前 進 子実用、莖葉太く多収、寒さに弱い
太 豊 青刈用、莖葉太く極めて多収。寒さによわい

ビクトリー 子実用、莖葉細く軟い、寒さによわい
豊 葉 青刈用、莖葉軟く極めて多収。寒さによわい

雪印一〇一号 青刈用、莖葉軟く多収。寒さによわい

日向黒、岡山黒 子実用、早生、初期生育早、早春用

秋まき青刈作物の混播例

1 寒冷地	一〇アル当播種量(キ)	四・〇
ライムギ	六・〇	
ヘアリーベツチ		
2 暖地		
(イ) えんばく	三・〇	
イタリアンライグラス	一・〇	
コモンベツチ	六・〇	
(ロ) えんばく	三・〇	
イタリアンライグラス	一・〇	
(ハ) えんばく	三・〇	
イタリアンライグラス	一・〇	

園地緑肥の王 コモンベツチ

冬期間、園地の地表を被覆し、春の生育が旺盛なコモンベツチは、地上の草の量と地下の根密度によって、表土の流亡防止、土壌の肥沃化に役立つ貴重な緑肥作物です。

秋まき家畜かぶ 増収のポイント

作りやすく、生育の早いかぶは、零細な経営にびったりした多収な根菜です。嗜好は良いし、貯蔵もきく、蛋白生産は少ないが、家畜の食欲を高め、ビタミンを補給し、泌乳をうながします。増収のコツは次の通りです

- 1 施肥、多肥が必要で堆肥の肥効が大きい。基肥として堆肥一、二〇〇キ、硫安四〇〇キ、過石四〇〇キ、硫加一五キ、追肥尿素二〇キ
 - 2 播種期 寒地では七月下旬〜八月月上旬、暖地では八月下旬〜九月中旬までにまく。
 - 3 播種法 畦幅六〇〜七〇センチ、株間二五センチ播種または点播する。時にはばらまきして逐次間引収穫したり、牧草中に混播して逐次収穫する方法もあります。
 - 4 間引 本葉五〜六枚のとき必ず一本立てとします。
 - 5 病虫害の防除 発芽時にジノミが食害するからBHC、DDTをまいておきます。
 - 6 収穫と貯蔵 播種後六〇〜七〇日から収穫出来ますが、貯蔵用は充分生育させた方が安全です。逐次抜きとってあたえるか、寒地では掘りとり、莖葉部を切断し凍結しないように貯蔵します。
- 品種（生育日数）
- 雪印改良紫かぶ（八〇日）早生、多収。莖葉部分は少ないが根部の肥大が早い。
- 小岩井かぶ（一〇〇日）中生、多収。莖葉部の生産量も多い。
- 下総かぶ（一一〇日）晩生、多収。莖葉、根共に多収。
- セブントップ（一三〇日）極く晩生、西南暖地に適する。